TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　717語

Why the Swallow's Tail is Forked

ツバメのしっぽはなぜふたまた

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Appollonia

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　大いなる神さまのもとに集まった動物たち。ヘビにいちばんよい血をしらべる役目をもらったカは、帰り道でツバメに出会って……。

This is the story of how the swallow's tail came to be forked.

One day the Great Spirit asked all the animals that he had made to come to his lodge. Those that could fly came first: the robin, the bluebird, the owl, the butterfly, the wasp, and the firefly. Behind them came the chicken, fluttering its wings and trying hard to keep up. Then came the deer, the squirrel, the serpent, the cat, and the rabbit. Last of all came the bear, the beaver, and the hedgehog. Every one traveled as swiftly as he could, for each wished to hear the words of the Great Spirit.

"I have called you together," said the Great Spirit, "because I often hear you scold and fret. What do you wish me to do for you? How can I help you?"

"I do not like to hunt so long for my food," said the bear.

"I do not like to build nests," said the bluebird.

"I do not like to live in the water," said the beaver.

"And I do not like to live in a tree," said the squirrel.

At last man stood erect before the Great Spirit and said, "O Great Father, the serpent feasts upon my blood. Will you not give him some other food?"

"And why?" asked the Great Spirit.

"Because I am the first of all the creatures you have made," answered man proudly.

Then every animal in the lodge was angry to hear the words of man. The squirrel chattered, the wasp buzzed, the owl hooted, and the serpent hissed.

"Hush, be still," said the Great Spirit. "You are, O man, the first of my creatures, but I am the father of all. Each one has his rights, and the serpent must have his food. Mosquito, you are a great traveler. Now fly away and find what creature's blood is best for the serpent. Do you all come back in a year and a day."

The animals straightway went to their homes. Some went to the river, some to the forest, and some to the prairie, to wait for the day when they must meet at the lodge of the Great Spirit.

The mosquito traveled over the earth and stung every creature that he met to find whose blood was the best for the serpent. On his way back to the lodge of the Great Spirit he looked up into the sky, and there was the swallow.

"Good-day, swallow," called the mosquito.

"I am glad to see you, my friend," sang the swallow. "Are you going to the lodge of the Great Spirit? And have you found out whose blood is best for the serpent?"

"The blood of man," answered the mosquito.

The mosquito did not like man, but the swallow had always been his friend. "What can I do to help man?" he thought. "Oh, I know what I can do." Then he asked the mosquito, "Whose blood did you say?"

"Man's blood," said the mosquito; "that is best."

"This is best," said the swallow, and he tore out the mosquito's tongue.

The mosquito buzzed angrily and went quickly to the Great Spirit.

"All the animals are here," said the Great Spirit. "They are waiting to hear whose blood is best for the serpent."

The mosquito tried to answer, "The blood of man," but he could not say a word. He could make no sound but "Kss-ksss-ksssss!"

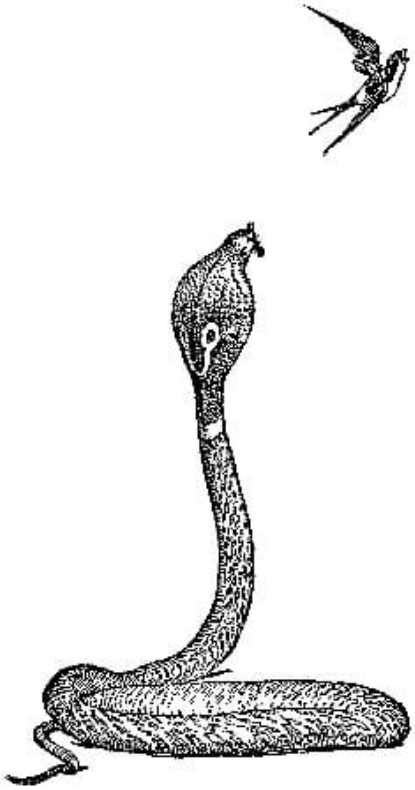
"What do you say?"

"Kss-ksss-ksssss!" buzzed the mosquito angrily.

All the creatures wondered. Then said the swallow:—

"Great Father, the mosquito is timid and cannot answer you. I met him before we came, and he told me whose blood it was."

"Then let us know at once," said the Great Spirit.



"It is the blood of the frog," answered the swallow quickly. "Is it not so, friend mosquito?"

"Kss-ksss-ksssss!" hissed the angry mosquito.

"The serpent shall have the frog's blood," said the Great Spirit. "Man shall be his food no longer."

Now the serpent was angry with the swallow, for he did not like frog's blood. As the swallow flew near him, he seized him by the tail and tore away a little of it. This is why the swallow's tail is forked, and it is why man always looks upon the swallow as his friend.

これは、ツバメのしっぽがどうしてふたまたになったかというおはなしです。

ある日、大いなる神さまは、自分がつくった動物たちみんなに、自分の家へ来るように言いました。とべるものたちが先にやってきました。コマドリ、ルリツグミ、フクロウ、チョウ、ハチ、そしてホタルです。そのあとから、ニワトリがはねをばたばたさせて、おくれないように一生けんめいついてきました。それから、シカ、リス、ヘビ、ネコ、ウサギがやってきました。いちばんさいごに、クマとビーバーとハリネズミがやってきました。みんな、大いなる神さまの言葉を聞きたかったので、できるだけ急いでやってきました。

「おまえたちをよび集めたのは」と大いなる神さまは言いました。「おまえたちがもんくを言ったり、ぶつぶつ言ったりするのをよく聞くからだ。わたしに何をしてほしいのかね？どうしたら助けてやれるだろう？」

「食べものを長いあいださがし回るのはいやです」とクマが言いました。

「巣をつくるのはいやです」とルリツグミが言いました。

「水の中にすむのはいやです」とビーバーが言いました。

「木の上にすむのはいやです」とリスが言いました。

さいごに、人間が大いなる神さまの前にすっくと立って言いました。「おお、大いなるお父さま、ヘビがわたしの血をごちそうにしているのです。ヘビにはほかの食べものをあげてくれませんか？」

「どうしてだね？」と大いなる神さまはききました。

「わたしは、あなたがつくった生き物の中でいちばんえらいからです」と人間はとくいそうに答えました。

すると、家の中の動物たちはみんな、人間の言葉を聞いておこりました。リスはキーキーさわぎ、ハチはブンブンうなり、フクロウはホーホーなき、ヘビはシューッと言いました。

「しっ、しずかに」と大いなる神さまは言いました。「人間よ、おまえはたしかにわたしの生き物の中でいちばんえらい。だが、わたしはみんなのお父さんなのだ。どの生き物にも、それぞれの言い分がある。ヘビにも食べものが必要だ。どの生き物にも、それぞれのけんりがある。ヘビにも食べものがひつようだ。さあ、とんでいって、どの生き物の血がヘビにいちばんよいか見つけてきなさい。みんな、1年と1日たったら、またここへもどってきなさい。」

動物たちはすぐにそれぞれの家へ帰りました。川へ行くもの、森へ行くもの、草原へ行くものがいて、みんな大いなる神さまの家にまた集まる日を待ちました。

カは世界中をとび回り、出会った生き物をかたっぱしからさして、だれの血がヘビにいちばんよいかしらべました。大いなる神さまの家へもどるとちゅう、カが空を見上げると、そこにツバメがいました。

「こんにちは、ツバメさん」とカはよびかけました。

「会えてうれしいよ、カくん」とツバメは歌うように言いました。「大いなる神さまの家へ行くところかい？だれの血がヘビにいちばんよいか、わかったのかい？」

「人間の血だよ」とカは答えました。

カは人間がすきではありませんでしたが、ツバメはずっと人間の友だちでした。「人間を助けるには、どうしたらいいだろう？」とツバメは考えました。「そうだ、いい考えがある。」そしてツバメはカにききました。「だれの血だって？」

「人間の血さ」とカは言いました。「それがいちばんだよ。」

「こっちがいちばんさ」とツバメは言って、カの舌をひっこぬいてしまいました。

カはおこってブンブン言いながら、急いで大いなる神さまのところへ行きました。

「動物たちはみんなそろっている」と大いなる神さまは言いました。「みんな、だれの血がヘビにいちばんよいか聞こうと待っているのだ。」

カは「人間の血です」と答えようとしましたが、ひとことも言えませんでした。「クス、クスス、クススススス！」という音しか出せなかったのです。

「何と言ったのかね？」

「クス、クスス、クススススス！」とカはおこってブンブン言いました。

生き物たちはみんな、ふしぎに思いました。そのとき、ツバメが言いました。

「大いなるお父さま、カははずかしがりやで、お答えできないのです。ここへ来る前にカに会って、だれの血なのか聞きました。」

ここへ来る前にカに会って、だれの血なのか教えてもらいました。」

「カエルの血です」とツバメはすばやく答えました。「そうだよね、カくん？」

「クス、クスス、クススススス！」とおこったカはシューッと音を立てました。

「ヘビにはカエルの血をあげよう」と大いなる神さまは言いました。「もう人間をヘビの食べものにはしない。」

さて、ヘビはカエルの血がすきではなかったので、ツバメのことをおこりました。ツバメがそばをとんだとき、ヘビはツバメのしっぽにかみついて、少しちぎりとってしまいました。こういうわけで、ツバメのしっぽはふたまたになっているのです。そしてこういうわけで、人間はいつもツバメを友だちだと思っているのです。

たんご と クイズ　ツバメのしっぽはなぜふたまた

owl フクロウ	chicken ニワトリ	squirrel リス
bear クマ	beaver ビーバー	mosquito カ
swallow ツバメ	frog カエル	

Q1 だれの血がヘビにいちばんよいか、しらべに行ったのはだれ？

① カ　② フクロウ　③ リス

Q2 カが神さまに答えられなかったのはどうして？

① こわくて声が出なかったから　② ツバメに舌をぬかれたから　③ かぜをひいたから

Q3 ツバメのしっぽがふたまたになったのは、だれのせい？

① カ　② カエル　③ ヘビ

こたえ

Q1 ①　旅がとくいなカが、世界中をとび回って生き物をさし、だれの血がよいかしらべました。

Q2 ②　人間を助けたいツバメが、カの舌をひっこぬいてしまったので、カは「クスクス」としか言えなかったのです。

Q3 ③　カエルの血がすきではなかったヘビが、おこってツバメのしっぽをかみ、少しちぎりとったのです。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Appollonia（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。